

千燈プロジェクト



千灯地区の皆さんは、手作りの石垣もちや家で採れた柿などおせつたいをしていました。千燈プロジェクトは、山登りの要素を含みながら鑑賞を行うので、作品を案内するガイド役も体力が必要となります。そのガイドを引き受けてくれたのが、昨年4月に東京から移住して来た古川拓郎さんでした。芸術祭当時からガイドをしていたので、作品設置作業等の苦労話など交えながら、来訪者の案内をしていました。芸術祭開催時に1番の人気者となったダミーちゃん人形は、今でも来訪



者との記念写真に収まっています。

伊美ギャラリー通り



国見アートの会の皆さんは、たくさんワークショップを用意しておせつたいをしていました。特に、移住体験施設「イミテラス」では、アートフェスタ開催中の土日には必ずワークショップが開催され、地元の中学生から県外の方まで多くの方で賑わいました。その中でも、陶芸作家仲間が開催した陶板制作は、ワークショップ参加者が絵付



けした陶板を、伊美ギャラリー通りに設置するものでした。誰にでも作れることや思い出作りになることから数多くの方が参加。個性的な陶板がたくさん集まり、アートフェスタ最終日には見事な伊美ギャラリー通りの看板が完成しました。

岐部プロジェクト



10月18日には約630年前に始まったといわれる岐部子供獅子舞の特別公演が行われました。手作りの甘酒やぜんざいなど心のこもったおせつたいが振る舞われていました。岐部子供獅子舞は、毎年4月と10月の年2回岐部神社で開催されており、市内外から訪れる方達に岐部地区の伝統文化を知ってもら



うために行いました。この日は、バスツアーも訪れ、ツアー客の皆さんは、初めて見る岐部子供獅子舞に見入っていました。

成仏プロジェクト



成仏桜会の皆さんのおせつたいは、自家製の漬物も大好評ですが、何よりも喜ばれたのはこしよもちです。こしよもちちは、西暦の偶数年に成仏寺で行われる伝統行事「修正鬼会」で振る舞われるものです。そのこしよもちを、10月24日に開催されたAPU留学生交流ツアーで、国際学生と一緒に作りました。お餅を触るのも初めての学生も多数いましたが、地元の方達に教えてもらいながら挑戦していました。中には、餅を切る機械を上手に扱える男子学生もおり、楽しい交流の一時を過ごしていました。



くにしきアートフェスタ2015を振り返って

くにしきアートフェスタ2015の実績

11月1日の成仏ハンドレッドライフコンサートをもって、くにしきアートフェスタ2015は閉幕しました。「文化・芸術によるまちづくりの推進」を合言葉に、市内の各種団体が連携して開催した「くにしきアートフェスタ2015」を集計したデータを基に振り返ります。

① 来訪者数

10月10日から11月1日までの開催期間中に延べ7,000名の方が各アートプロジェクトや国見工房ギャラリーめぐり、関連イベントに会場に来ていただきました。特に、10月11日に開催されたレトロカミーティンクの会場には、約4,000名の方が訪れる盛り上がりを見せました。

② 来訪者層

来訪者層の7割以上の方が市外からの方でした。国東半島芸術祭のときにも同じ傾向がみられました。また、今回のイベントを市内の方達が知らなかったとの声を寄せられています。

③ 無料バスツアー

バスツアー参加者の多くは女性



くにしき芸術のまちづくり実行委員会 委員長 山本 純夫さん

私は、国見町の地域振興に取り組んできた人間として、国東半島芸術祭のプロジェクトが千燈や岐部に設置されたことは、国見町が育んできた文化や歴史、そして自分達が取り組んできた移住や観光の活動が認められたようで非常にうれしかったです。そして、去年の11月末に国東半島芸術祭が終わったとき、このまま終わらなかつたらもったいないと感じていま

くにしきアートフェスタ2015を 終えて

で、国東には興味があるが自分の運転で国東まで来るのは難しいと断念していた人達でした。前回の国東半島芸術祭のバスツアー、現在実施中のさ吉くんバスツアー、今回の無料バスツアーと参加募集するとキャンセル待ちがでるほどバスツアーは人気を博しています。



した。幸いにも、私と同じ気持ちだった人がたくさんいて、地域の枠を超えてくにしき芸術のまちづくり実行委員会が結成できました。私達は、今回初めて連携する団体がほとんどだったので、手探りで運営する部分が多かったです。しかし、開催期間中に延べ7,000名もの方達が訪れてくれたこと、また、今回連携した団体の皆さんと一緒にこのイベントに取り組みたことを非常に嬉しく思っています。これから、来年開催する「くにしきアートフェスタ2016」に向けて、参加した皆さんとじっくりと話し合っって、より良いイベントに育っていきます。